

令和6年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和7年2月19日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
正義を愛し、 自他を大切にする心の育成する。 【心をみがく子】	・自他を大切にする心の育成	・規範意識や思いやりの心を育成する体験活動を計画的・継続的に推進する。 《学校行事、異学年交流、学級活動の様子》	A	A	・なかよしタイムでの異学年交流や係・当番活動で、多様な集団や他者と関わり合う活動を行い、規範意識や思いやりの心を育てることができた。	A	・異学年交流やお話タイムは思いやりや違う意見も尊重することにつながっている。 ・今後もさまざまな場面で子どもどうしが互いに考え方を尊重し合える機会を増やしてほしい。	・お話タイムで身近な興味のあるテーマを設定する。 ・高学年では自分の考えを伝えることに自信がもてず、積極性に欠ける子もいるので、授業でも話し合いの場を増やし、段階を踏んで伝える経験を積ませていく。 ・各教科でも異学年交流の機会を作る。
	・自尊感情や他者理解の高揚	・自分の考えをすすんで伝えるとともに、相手の考えを尊重して聞くとする意欲を高める。 《道徳授業やお話タイム等の観察やふりかえり》	A		・計画的・継続的にお話タイムや話し合い活動を実施することで、相手を意識した話し方・聞き方を身につけ、話し合いを楽しむことができた。			
みがく子 【学ぶ意欲を高め、一人一人のよさを伸ばす。】 【頭を】	・自ら学ぶ態度の育成	・タブレット端末を活用し、協働学習や習熟の程度に応じた学習に取り組む意欲と技能を高める。 《授業や課題への取り組みの様子》 ・基礎基本の定着を図る。 《やればできるテストの成果の分析》	B	B	・タブレット端末は、協働学習に活用することはあまりできなかつた。 ・やればできるテストでは、目標点数を設定し、繰り返し復習を行つたことで、基礎基本の定着を図ることができた。 ・生活科や夢たま学習を中心に、子どもたちが見つけた課題を共有し、体験したり、調べたり、伝えたりする活動で学びを深めることができた。	A	・先生も子どももタブレットを使いこなしている。 ・低学年から学習の習慣化、自主学習が楽しいと思える種まきが必要。 ・体験から出てきた問題意識に対しての調べ学習は大切。それを人に伝えて、関わりをもてるとよい。	・タブレット学習では、情報モラル学習を適切に行い、節度ある使い方を身につけつつ、より子どもたちが自由に使える環境を整えていきたい。 ・個々の技能だけでなく、協働的な学びにつながるような活用をめざす。 ・体験的な活動を設定することにより、子どもたちの意欲的な学習につなげることができたので、今後も継続する。
	・問題解決力の育成	・自分で課題を設定し、体験や調べ学習を工夫し、学習を深める力を育む。 《調べ学習の様子》 ・自分の言葉で考えを伝え、よりよい考え方を追究できる力を育む。 《授業実践の振り返り》	A					
自分の「いのち」は自分で守ろうとする意識 【体をみがく子】	・生活安全の徹底	・地域や保護者と連携し、心身の健康保持に必要な基本的な習慣を育成する。 《生活状況の観察》	B	B	・元気アップカードやメディアコントロールの活用により、努力する基準が保護者に伝わり、実施期間は意識している子どもが多く見られた。 ・かけ足チャレンジやなわとびチャレンジなどの体育的行事では、みんなでがんばる雰囲気ができ、それぞれの目標をもって取り組むことができた。	A	・カードで保護者にも関わってもらうことは親子で意識できてよい。 ・長縄でクラスの目標に向かって努力したのはよい。努力の過程を大切にしてほしい。 ・健康新体作りと共に、自己肯定感を高めることが必要。	・子どもたちや保護者へ健康保持に対する呼びかけの工夫や学校での対策を引き行っていく。 ・体育の授業中の運動量の確保に努める。 ・ランフェスなどの体育的行事に合わせて、より意欲が高まるような仕掛け・仕組みづくりをする。
	・健康でたくましい体の育成	・体育授業と学校行事の連携、外遊びの奨励により、基礎的な体力と運動意欲の向上を図る。 《取り組みの状況や成果の分析》	B					
と共に成長する教職員集団をめざす。 【常に子どもが主体】の理念のもと、地域や子どもも	・教職員の専門性の向上と業務改善	・働き方改革の視点による業務改善に取り組みながら、各自の専門性を高める研修を推進する。 《研修による資質向上》 《ICT等を活用した業務改善の状況》	B	B	・教員それぞれの得意分野を生かし、講師となって現職研修を行うことで、知見を深めることができた。 ・デジタル教科書や各アプリなどICTを活用することで、子どもの理解が深まるとともに業務改善にもつながった。	A	・デジタル化が進み、業務改善につながっているのはよい。子どものICT活用は慎重に行ってほしい。 ・さらに地域や保護者との連携を密にしてほしい。	・各自の専門性を生かした研修や交換授業の推進を図る。 ・働き方改革の視点から業務改善をより図っていく。 ・ボランティアを依頼すると効果がある活動を洗い出し、前もって保護者に伝えておくことで、もっと積極的に活用していく。
	・地域や保護者との連携の推進	・教育活動を伝えるために、定期的に情報を発信する。 《HPやメール等による情報発信》 ・懇談会の設定やボランティアの依頼により、教育活動への理解を図る。 《各行事への参加の様子》	B		・学校行事やミニボランティアなど、保護者のかたの協力を依頼することで、教育活動の質が高まり、活動への理解も深まった。			

【自己評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない】